

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部、歯学部を擁する全連係大学（北海道大学歯学部、大阪大学歯学部、九州大学歯学部、長崎大学歯学部、鹿児島大学歯学部、岩手医科大学歯学部、日本大学歯学部、昭和大学歯学部）
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1（生活習慣病と口腔）
対象者	歯学生4～6年次生（各大学においてこれら学年のいずれかで2単位のプログラムを実施する）
修業年限（期間）	1年以内（各大学2単位・90分×15回の授業を行い修業させる。この期間は大学により異なる。）
養成すべき人材像	・生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔・全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを持った歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの2単位を履修し、プログラムの最終回に行う内容に即した課題試験に合格すること。【全参加校必修】 履修方法： <u>次項の履修科目内容を新設（2単位）</u> し、履修させる。試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題—レポート提出を反復させる。
履修科目等	<p><全参加校必修科目> 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1（生活習慣病と口腔）（2単位）</p> <p>各校で各回の担当者が直接学生に講義、またはe-learningあるいはDVD視聴等で教授する。</p> <p>各回の講義内容は以下の通り。</p> <p>第1回：歯科保健対策の歴史と潮流～健康日本21 第2回：地元地方自治体の歯科保健・ヘルスプロモーション施策 第3回：生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔・全身健康学」の歴史と潮流 第4回：歯学生のためのメタボリックシンドローム概説 第5回：口腔の健康とメタボリックシンドローム—糖尿病 第6回：口腔の健康とメタボリックシンドローム—肥満 第7回：妊婦・胎児の栄養代謝、子宮内胎児発育遅延とメタボリックシンドローム 第8回：口腔の健康と早産、低体重児出産 第9回：歯学生のための動脈硬化疾患概説 第10回：口腔の健康と心血管系疾患 第11回：歯学生のための睡眠時無呼吸症候群概説 第12回：睡眠時無呼吸症候群への歯科的アプローチ 第13回：歯学生のための認知症疾患概説 第14回：口腔の健康と認知症 第15回：総合討論</p>

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p>生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔から全身への健康学」について近年先導的な役割を担ってきた大学の<u>歯学教育を連携大学群で共有し、均てん化することに新規性かつ独創性がある。</u> <u>歯学と医学そして行政との融合教育を行うことも新規性かつ独創性</u>である。</p>						
指導体制	<p>教育プログラム統括： 岡山大学・森田学教授（歯学部副学部長、教務委員長） 九州大学・西村英紀教授（歯周病学）</p> <p>各回の講義およびe-learning、DVD教材担当者は以下の通り。 第1回：岡山大学・森田学教授（歯学部副学部長、教務委員長） 第2回：岡山市保健所・河本幸子課長補佐 第3回：岡山大学・高柴正悟教授（歯周病学） 第4回：岡山大学・四方賢一教授（糖尿病学） 第5回：九州大学・西村英紀教授（歯周病学） 第6回：長崎大学・斎藤俊行教授（予防歯科学） 第7回：岡山大学・増山寿准教授（産科学） 第8回：鹿児島大学・長谷川梢助教（歯周病学） 第9回：岡山大学・三好亨助教（循環器内科学） 第10回：長崎大学・中山浩次教授（口腔細菌学） 第11回：岡山大学・谷山真規子助教（循環器内科学） 第12回：岡山大学・水口一講師（歯科補綴学） 第13回：岡山大学・阿部康二教授（神経内科学） 第14回：岡山大学・江國大輔講師（予防歯科学） 第15回：岡山大学・森田学教授（歯学部副学部長、教務委員長）</p> <p>平成28年度以降の全連携校による実施において、各大学で活躍する専門家が講義担当できる場合、e-learningあるいはDVD視聴によらず、直接講義を行う。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。</p>						
受入開始時期	<p>〔平成26年度： 担当教員のFDを行うとともに、次年度以降申請校で実施できるようカリキュラム編成を行う。全連携校は平成28年度から実施できるよう、カリキュラム編成を開始する。〕</p> <p>平成27年度： 主幹校である岡山大学で受入を開始する。引き続き担当教員のFDを行うとともに、次年度以降全連携校で受入ができるよう、カリキュラム編成の確立を行う。</p> <p>平成28年度： 全連携校で受入を開始する。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学 歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校 歯学生	0	0	545	545	545	1,635
							0
							0
	計	0	55	600	600	600	1,855

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部、歯学部を擁する全連係大学（北海道大学歯学部、大阪大学歯学部、九州大学歯学部、長崎大学歯学部、鹿児島大学歯学部、岩手医科大学歯学部、日本大学歯学部、昭和大学歯学部）
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ2（急性期医療）
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中か実施後）
修業年限（期間）	1年以内（各大学2単位・90分×15回の授業を行い修業させる。この期間は大学により異なる。）
養成すべき人材像	・ 周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法など、急性期医療における「口腔・全身健康学」の知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを持った歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの2単位を履修し、プログラムの最終回に行う内容に即した課題試験に合格すること。【全参加校必修】 履修方法： <u>次項の履修科目内容を新設（2単位）</u> し、履修させる。試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題レポート提出を反復させる。
履修科目等	<p><全参加校必修科目> 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ2（急性期医療）（2単位）</p> <p>各校で各回の担当者が講義を行う。講義担当者の派遣が困難である場合はe-learningあるいはDVD視聴で講義と同等の内容を教授する。</p> <p>各回の講義内容は以下の通り。</p> <p>第1回：周術期口腔機能管理総論 第2回：歯学生が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流 第3回：周術期歯科管理学各論講義1： 肺がん手術の実際―歯学生が知っておくべき知識 第4回：周術期歯科管理学各論講義2： 食道がん手術の実際―歯学生が知っておくべき知識 第5回：周術期歯科管理学各論講義3： 心臓血管外科手術の実際―歯学生が知っておくべき知識 第6回：周術期歯科管理学各論講義4： 集中治療の実際―歯学生が知っておくべき知識 第7回：周術期歯科管理学各論講義5：周術期看護学 第8回：歯学生が知っておくべき臨床腫瘍学総論 第9回：がん口腔支持療法各論講義1： 頭頸部放射線治療の実際と口腔内合併症への対策 第10回：がん口腔支持療法学各論講義2： がん化学療法の実際と口腔内合併症への対策 第11回：急性期医療における栄養学 第12回：歯学生が知っておくべき急性期看護学 第13回：災害時医療 第14回：災害時の歯科の役割1（阪神・淡路大震災，JR宝塚線脱線事故） 第15回：災害時の歯科の役割2（東日本大震災）</p>

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p>周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法などにおける「口腔から全身への健康学」について近年<u>先導的な役割を担ってきた大学の歯学教育を連携大学群で共有し、均てん化することに新規性かつ独創性がある。医学、看護学、栄養学との融合を図ることも新規性かつ独創性</u>である。</p>						
指導体制	<p>教育プログラム統括： 岡山大学・飯田征二教授（口腔外科学、歯科系代表副病院長、医療支援歯科治療部部長）、 岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学、医療支援歯科治療部副部長）</p> <p>各回の講義およびe-learning、DVD教材担当者は以下の通り。 第1回：岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学） 第2回：岡山大学・森田潔学長（麻酔・蘇生学） 第3回：岡山大学・宗淳一講師（呼吸器外科学） 第4回：岡山大学・白川靖博講師（消化管外科学） 第5回：岡山大学・佐野俊二教授（心臓血管外科学） 第6回：岡山大学・森松博史教授（周術期管理センター、集中治療学） 第7回：岡山大学・足羽孝子看護師長（岡山大学病院周術期管理センター・クリティカルケア看護教育担当師長） 第8回：岡山大学・谷本光音教授（臨床腫瘍学） 第9回：岡山大学・松崎秀信助教（歯科放射線学） 第10回：岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学） 第11回：岡山大学・坂本八千代栄養管理室長（岡山大学病院臨床栄養部） 第12回：岡山大学・保科英子教授（急性期看護学） 第13回：岡山大学・氏家良人教授（救急医学） 第14回：兵庫医科大学・岸本裕充教授（歯科口腔外科学） 第15回：岩手医科大学・城茂治教授（歯科麻酔学）</p> <p>平成28年度以降の全連携校による実施において、各大学で活躍する専門家が講義担当できる場合、e-learningあるいはDVD視聴によらず、直接講義を行う。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。</p>						
受入開始時期	<p>〔平成26年度： 担当教員のFDを行うとともに、次年度以降申請校で実施できるようカリキュラム編成を行う。全連携校は平成28年度から実施できるよう、カリキュラム編成を開始する。〕</p> <p>平成27年度： 主幹校である岡山大学で受入を開始する。引き続き担当教員のFDを行うとともに、次年度以降全連携校で受入ができるよう、カリキュラム編成の確立を行う。</p> <p>平成28年度： 全連携校で受入を開始する。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学 歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校 歯学生	0	0	545	545	545	1,635
							0
							0
	計	0	55	600	600	600	1,855

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部、歯学部を擁する全連係大学（北海道大学歯学部、大阪大学歯学部、九州大学歯学部、長崎大学歯学部、鹿児島大学歯学部、岩手医科大学歯学部、日本大学歯学部、昭和大学歯学部）
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 死生学、健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ3（在宅介護医療）
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中か実施後）
修業年限（期間）	1年以内（各大学2単位・90分×15回の授業を行い修業させる。この期間は大学により異なる。）
養成すべき人材像	・回復期、慢性期医療および在宅医療における「口腔・全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療および在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し実践するマインドを持った歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの2単位を履修し、プログラムの最終回に行う内容に即した課題試験に合格すること。【全参加校必修】 履修方法： 次項の履修科目内容を新設（2単位）し履修させる。試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題レポート提出を反復させる。
履修科目等	<p><全参加校必修科目> 死生学、健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ3（在宅介護医療）（2単位）</p> <p>各校で各回の担当者が講義を行う。講義担当者の派遣が困難である場合はe-learningあるいはDVD視聴で講義と同等の内容を教授する。</p> <p>各回の講義内容は以下の通り。</p> <p>第1回：回復期、慢性期医療および在宅医療における「口腔・全身健康学」総論</p> <p>第2回：臨床死生学、臨床倫理学1．高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドラインー人工的水分・栄養補給の導入を中心として</p> <p>第3回：臨床死生学、臨床倫理学2．延命医療と臨床現場：人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学</p> <p>第4回：歯学生が知っておくべき緩和医療学</p> <p>第5回：超高齢社会における歯科医療と多職種連携</p> <p>第6回：在宅医療推進のための多職種連携ー柏プロジェクト</p> <p>第7回：地域医療現場の魅力</p> <p>第8回：老年学における歯科の位置付け</p> <p>第9回：在宅医療における歯科の重要性</p> <p>第10回：訪問看護の役割</p> <p>第11回：中山間・過疎地域における地域包括ケア</p> <p>第12回：自治体による健康寿命増進</p> <p>第13回：在宅歯科医療の実際</p> <p>第14回：回復期、慢性期医療および在宅医療における摂食嚥下機能訓練の実際</p> <p>第15回：総合討論</p>

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p><u>終末期医療までもテーマの一つに据えることが新規性かつ独創性</u>を有する。歯科医師の多くは開業医の医療提供体制で地域医療を担っているが、生活の自立度が比較的保たれた患者を診ることが多く、患者の終末期・死も含め、人の一生を見据える歯科医療の在り方を考える経験が少ない。本教育プログラムでは、<u>東京大学死生学・応用倫理センターの協力を得て、歯学教育に初めて死生学を導入</u>する。このことが患者の終末期・死も含め、人の一生を見据えた健康長寿社会の実現のために歯科医療がどうあるべきかを考え、貢献する歯科医師のマインドの醸成に繋がる。</p> <p>医療人として必要な哲学観、倫理観とともに、現社会が回復期、慢性期医療および在宅医療で歯科医療に求めているもの、実践につながる知識を、<u>医学、看護学の専門家を交えて教授することも新規性かつ独創性</u>である。<u>東京大学高齢社会総合研究機構の協力を得て、最先端の地域包括ケアである柏プロジェクトを題材とすることも独創性</u>である。</p>						
指導体制	<p>教育プログラム統括： 岡山大学・宮脇卓也教授（歯科麻酔学、教育担当副病院長）、 村田尚道助教（摂食嚥下リハビリテーション学）</p> <p>各回の講義およびe-learning、DVD教材担当者は以下の通り。 第1回＊：岡山大学・宮脇卓也教授（歯科麻酔学、教育担当副病院長） 第2、3回：東京大学・清水哲郎特任教授、会田薫子特任准教授（死生学・応用倫理学） 第4回＊：岡山大学・松岡順治教授（緩和医療学） 第5、6回：東京大学・飯島勝矢准教授（老年医学、老年学） 第7回＊：岡山大学・佐藤勝教授（地域医療学） 第8回：東京都健康長寿医療センター・平野浩彦副部長（老年歯科学） 第9回：国立長寿医療研究センター・角保徳部長（老年歯科学） 第10回＊：岡山大学・谷垣静子教授（在宅看護学） 第11回＊：岡山大学・浜田淳教授（医療政策・地域医療学） 第12回＊：岡山大学・土居弘幸教授（疫学・衛生学） 第13回＊：岡山大学・吉富達志臨床講師（地域医療学） 第14回＊：岡山大学・村田尚道助教（摂食嚥下リハビリテーション学） 第15回＊：岡山大学・宮脇卓也教授（歯科麻酔学、教育担当副病院長） ＊平成28年度以降の全連携校による実施において各大学で活躍する専門家が講義担当できる場合、e-learningあるいはDVD視聴によらず直接講義を行う。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。</p>						
受入開始時期	<p>〔平成26年度： 担当教員のFDを行うとともに、次年度以降申請校で実施できるようカリキュラム編成を行う。全連携校は平成28年度から実施できるよう、カリキュラム編成を開始する。〕 平成27年度： 主幹校である岡山大学で受入を開始する。引き続き担当教員のFDを行うとともに、次年度以降全連携校で受入ができるよう、カリキュラム編成の確立を行う。 平成28年度： 全連携校で受入を開始する。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校歯学生	0	0	545	545	545	1,635
							0
							0
	計	0	55	600	600	600	1,855